

健康コラム

保健 医療 介護 福祉

●飯南病院 電話72・0221 ●来島診療所 電話76・2309 ●保健福祉センター 電話72・1770

飯南町で過ごした6カ月

飯南病院での勤務が始まったのは平成29年10月。離島や山間地で働ける医師になりたいと思い、島根県立中央病院で総合診療科を専攻していましたが、こんなにも早く、目標とする地で勤務するとは思いませんでした。最初は、病院へ行ってみると、町の皆さんやスタッフが暖かく迎えてくださり、少しでも皆さんが安心して毎日が送れるように支えたいと思いました。

飯南病院で働き分かったことは、「地域医療は目の前の患者さんだけでなく、家族や住んでいる地域、交通手段や気象条件等、多くのことを考える必要がある」ということ。例えば、高齢で雪の中、外来に来るのが難しそうなときは、状態が許せば暖かくなってからに調整したり。一人暮らしができていた人が、入院で一人暮らしができていなくなってしまう時、近所の人協力や家族間で調整をして、自宅での生活が維持できるようにしていました。

飯南 便り

飯南町の皆さんへ



島根県立中央病院 総合診療科 上野伸行

るのか。それは、飯南病院や各サービスに関わる人、家族が、みんな同じ方向を向いているからだと思います。どうしたら患者さんにとって最も良いかをそれぞれの立場で真剣に考えています。病院が大きくなればなるほど、住んでいる地域が都市になればなるほど、細かい調整はしにくくなります。その点、飯南町はぎゅつとまとまってきた質の高いサービス提供ができています。

最後に

飯南病院の先生は皆さん総合診療医です。「病気だけではなく、どんなことでも、困ったことがあれば相談できる先生です。」「こんなことを先生に聞いて良いのかな」と思うことでも勇気をもって聞いてみてください。

6カ月間という短い間で、飯南病院の一員として働かせていただきました。また、皆さんとお会いできるその日まで日々精進します。その際には、またよろしくお願ひします。ありがとうございました。

保健福祉 便り

飯南町で初開催 難病ボランティア養成講座

町内で「難病」指定を受けている方は約50名。

平成29年4月から、町内でも難病サロン「ほのり。」が開かれています。サロンに合わせ、難病を正しく理解し、どう支えていくかを学ぶため、雲南保健所と町社会福祉協議会の協力で、今回の講座が開催されました。

はじめに、島根県立大学副学長の山下和也先生から、主な疾患である、パーキンソン病、筋委縮性側索硬化症(ALS)、全身性エリテマトーデス(SLE)の3疾患の、基礎的

な知識を学びました。また、ボランティアとして「病気の理解はもとより、薬が効かなくなった時や副作用を理解することが大切だ」と話がありました。

特にパーキンソン病は、満足感や意欲を持つと、症状が軽快するといわれ、支える側の働きかけが重要です。

患者さんの体験発表では、自分が一番不幸せだと思っていたら、あっという間に、笑えなかった5年間、しゃべること、笑うことができなくなった日々。旦那さんに思っていることを話さず、楽にならなかったそうです。

「今は、病気をしたから感謝する。感謝すると感謝される。できることをできるだけやっていきたい。経験が自分を作る。これからも可能性に挑戦していきたい」と話されました。

最後に、お孫さんの歌に勇気づけられたという「カレンダーマーチ」を、「一年後、またみんな元気で会いましょう」と参加者全員で歌いました。

難病だから、接するのが難しそう…などと肩ひじを張らずに、できないことを手伝う、まずは「傾聴」からです。



こんにちは
中山間地域研究
センターです。

センター図書室 にお越しく下さい!

中山間地域研究センターに併設している図書室は、町民の皆さんをはじめ、どなたでも利用できます。

常設図書は、農林畜産業や中山間地域関係の少し硬めの内容の本を豊富に取り揃えています。また、絵本や自然科学の本、大人向けの小説などバラエティーに富んだ図書100冊を、県立図書館から借りて、3カ月おきに更新しています。図書室の本は、誰でも借りられます。



●中山間地域研究センター
電話 0854・76・2025
<http://www.pref.shimane.lg.jp/chusankan/>

今年度も引き続き、よろしくお願ひします

飯南町では、公民館単位の5地区に1名ずつ「集落支援員」を配置しています。

地域で抱えている課題は違いますが、これらの課題の解決や、その地域で住み続けるための取り組みを、地域の皆さんと一緒に考えています。【例：①生活機能の確保(買い物支援や高齢者見守りなど)、②生活交通の確保(自治会輸送、デマンドバスなど)、③地域産業の振興(特産品開発や交流事業の推進など)】また、地域活性化の取り組みや、地域の皆さんと行政をつなぐ橋渡しの役目も担っています。

志々地区では小さな拠点づくりを進めるため、「小さな拠点づくり支援員」を引き続き配置しています。「小さな拠点づくり支援員」は、さつき会館別館で月2回開催される陽サロ2号店



服部恵子
集落支援員(順原)



金藤正道
集落支援員(赤名)



桐原 敏
集落支援員(志々)



澤田定成
集落支援員(谷)



朽木宣夫
集落支援員(来島)



渡部佳子
小さな拠点づくり支援員

住みよいまちへ
集落支援員
町内5地区で活動する、地域とともに歩む「集落支援員」の活動を紹介します。